



発行/日本赤十字社静岡県支部
〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
TEL054(252)8131
URL http://www.shizuoka.jrc.or.jp

共に創り、生きる未来へ。

赤十字しずおか

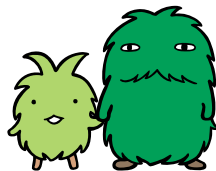
RED CROSS SHIZUOKA



▲観覧のための長い列ができる国際赤十字パビリオン



EXPO 2005 AICHI JAPAN



満足度ランキング連日上位に、大盛況の赤十字パビリオン

愛知万博情報

●赤十字パビリオン「マインドシアター」に感動

万博開幕から4ヵ月、赤十字パビリオンの来館者は、連日2,000人を超え、シアターも常時満席状態、入口では、平日でも昼前後から40〜50分待ちとなっています。

紛争や災害に苦しみながら力強く生きる世界の人々と赤十字を描く「マインドシアター」と映像を観た後にメッセージを書いてもらう「こころの掲示板」が、インターネット

の「愛知万博パビリオン満足度ランキング」で連日1位になったことでマスコミに取り上げられています。

当県では、6月15〜21日までボランティア1人と職員2人をパビリオンスタッフとして派遣しました。

パビリオンスタッフの感想

○兼子輝男さん(ボランティア)

今も心に残っていることは、日々パビリオンを訪れる人々のなかで、映像を観た後の若い女性の涙でした。赤十字の基本原則を素直な心で受け止めてくれた証ではないでしょうか？

一人でも多くの人に観て欲しいと願っています。

○中村隼人(事務)

(静岡県赤十字血液センター)

万博に参加した感想を率直に述べる「勉強になった」「楽しかった」「忙しかった」他にもまだたくさんの方の言葉が頭に浮かんでいきます。

入場待ちの人々を整理誘導するなかで、非常に多くの人々がこのパビリオンに興味を持っていることを知りました。パビリオンを訪れた人々は、必ずや世界における赤十字の使命・活動を実感していただけることとされています。

今回得た体験を今後の業務に生かしていきたいと考えています。



▲シアター前で案内する兼子さん

●赤十字運営の診療所から

当県からは、6月9〜15日まで静岡赤十字病院の医師

3人、看護師4人を赤十字が運営する万博会場内西ゲート診療所に派遣しました。

看護師によると、約15万人の入場者があつた日には、西及び北ゲートの診療所合わせて200人近い人が診療所を訪れました。特に目立った症状としては、熱疲労による気分不快や頭痛など、暑さによるものが多かったということです。

です。また、たくさん歩くせいか靴擦れの手当もとても多かったとのことでした。

これからますます暑い季節に向かう中で、水分や食べ物をこまめに取る、帽子をかぶる、無理をしないなどの自己管理が必要です。会場でも、水飲み場を増設したり、日陰を増やす工夫をしていくそうです。万博にお出かけの際は、体調に充分気をつけて、いっぱい感動をみつけてきてください。



▲診療所受付にて、静岡赤十字病院スタッフ



高齢者支援活動が評価され、社長表彰を受彰

全国赤十字大会

裾野市赤十字奉仕団

5月20日の全国赤十字大会において裾野市赤十字奉仕団が、社長表彰を受彰しました。

同奉仕団は、昭和57年から市内の一人暮らしの高齢者向けに「給食サービス」をはじめとした高齢者支援活動

を継続して行っており、この活動が評価され今回の受彰となりました。

また、同奉仕団は、6月17日に支部長である石川嘉延県知事に受彰の報告をしました。



▲近衛社長から表彰を受ける高橋奉仕団委員長



▲石川支部長(県知事)に報告をする裾野市赤十字奉仕団員

学生サマーキャンペーンを実施

静岡県赤十字血液センター



“みんなでつなごう献血リレー”をスローガンに、今年も学生サマー献血キャンペーンが開催されました。

東部では7月2日(土)JR沼津駅前南口にて、中部では同月17日(日)静岡市葵スクエアにおいて献血協力を呼び掛ける学生ボランティアの声が響き渡りました。

各会場とも大変多くの人から献血へのご協力をいただきました。

このキャンペーンは、学生ボランティアが中心となり、若者の献血に対する意識を高め献血人口の増加を目的とし、全国各地で開催されているものです。西部では8月6日(土)JR浜松駅北口広場にて開催されます。



▲風船のプレゼントなどを行い、献血を呼びかけました

6月1日から英国渡航歴のある人の一部については献血にご協力いただけない新たな規程が追加され、例年以上に輸血用血液の確保が難しくなっています。

輸血が必要な人がいる。血液は長く保存できない。だから献血。ずっと献血。献血にご協力をお願いします。



赤十字ボランティアとしての意識を高め、必要な知識・技術を深めます



地域赤十字奉仕団リーダーシップ研修会開催

6月下旬～7月初

めにかけて、県下3会場(浜松・藤枝・沼津)において、地域赤十字奉仕団リーダーシップ研修会を開催しました。この研修は、赤十字ボランティアとしての意識と自覚を一層高め、社会の中で「気付き・考え・実行する」姿勢を養い、赤十字ボランティアとして必要な知識・技術を深めることを目的に毎年開催しているもので、今年度は、計133人の団員が参加しました。

1日目は、「赤十字について」「災害時のボランティア」の講義、腕などをほぐすことで癒しの効果を与えることのできるセラ



▲1日目のセラピューティック・ケア講習(ハンドケア)

ピューティック・ケア講習を受け、2日目は、前日の講義等を受けてのワークショップを行い、そのまとめとしてスタンツ(寸劇)で発表を行いました。

開会式では、緊張した面持ちでいた参加者たちも、グループでの活動を通して笑顔があふれるようになり、和やかな雰囲気の中、全3回の研修が終了しました。



サポート・レデイが笑顔でお出迎え 来院された方をエスコート

静岡赤十字病院

平成17年5月から、黄色の制服を着た女性職員「サポート・レデイ」が毎日1人、病院玄関で、患者さんをお迎えしています。来院した人の車の乗り降りの補助や、車椅子の手配、玄関から受付までのエスコートなどが主な業務です。

病院の玄関は、自家用車やタクシー、救急車などが次々と乗り入れ、混雑してしまうことも少なくありません。そのような中で、病院を利用する人々を安全に誘導したり、高齢者や身体の不自由な人のお手伝いをしたりして、玄関を明るくソフトな雰囲気にしたと「サポート・レデイ」を起用しました。



▲「お大事に」の声と共に患者さんをお見送り



合い言葉は「気づき・考え・実行する」 自他共に大切にできる子どもの育成を目指します

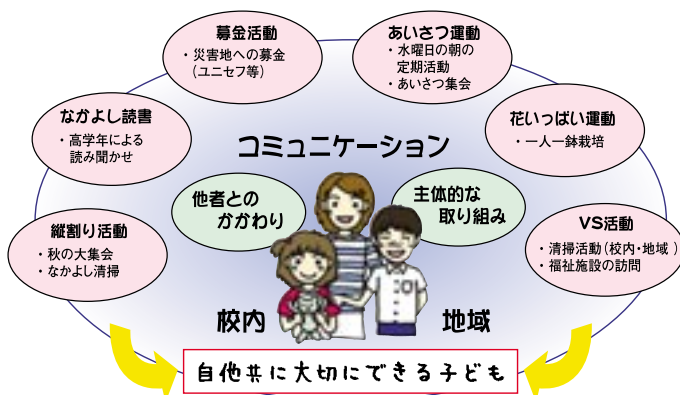
青少年赤十字活動推進研究校

浜松市立赤佐小学校

浜松市立赤佐小学校では、JRC活動を通し「自他共に大切にできる子どもの育成」を目指しています。特に、JRC精神「気付き・考え・実行する」を合い言葉に、日々の具体的、実践的な活動を大切にしています。

研究2年目を迎え、それぞれの活動に目的を持って主体的に取り組む子どもたちの姿が見られるようになりました。また、自分から進んで人にかかわろうとする態度や他を思いやる心も育ってきました。

■研究構想図





敷地面積は約3倍、 ゆとりのある療養環境を目指します

新築・移転について 浜松赤十字病院

浜松赤十字病院の新築・移転計画について、現状を報告いたします。新築移転先は浜松市小林地区(旧浜北市小林地区)、敷地面積は30,134㎡と現在の約3倍、建築面積は9,361㎡と現在の約2倍となります。新病院の特性として、がん、糖尿病、循環器疾患を主軸とした医療を目指します。平成17年10月着工、平成19年秋に開院予定です。



▲新病院外観



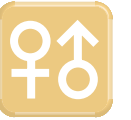
▲食事介護をする学生ボランティア

患者さんと触れあい、福祉の心養います

病院ボランティア活動

裾野赤十字病院

毎年恒例となり、不二聖心女子学園の生徒による病院ボランティア活動が6月30日に行われました。今回は、8人の生徒が来院し、入院患者さんのベッドの清掃や、昼食の配膳などを行いました。入院中のお年寄りの患者さんには、お孫さんと同年代ということで大変喜んでいただきました。当院といたしましては、生徒が患者さんに直接触れ合っていたただけだと考えております。



生命の不思議を わかりやすくレクチャーします 性教育の普及に向けて

伊豆赤十字病院

本院の枉幸^{ユズリハ}恵助産師が、「命の不思議」と題して、地域の性教育普及に努めています。5月に実施した赤十字フェスティバルでの活動状況を紹介します。今回は、小学校低学年までを対象に「命の不思議」プチ講義を開催しました。教材を子供たちの視点で作成するよう心がけたところ、女の子・男の子の絵をはじめ、大変好評でした。色とりどりの作品が子供たちの興味を引き付けるようです。卵膜付き胎盤やへその緒を沐浴人形に取り付けて、生まれたときにへその緒が切れるように工夫しました。

「命の不思議」プチ講義の様子

「命の不思議」と題して、地域の性教育普及に努めています。5月に実施した赤十字フェスティバルでの活動状況を紹介します。今回は、小学校低学年までを対象に「命の不思議」プチ講義を開催しました。教材を子供たちの視点で作成するよう心がけたところ、女の子・男の子の絵をはじめ、大変好評でした。色とりどりの作品が子供たちの興味を引き付けるようです。卵膜付き胎盤やへその緒を沐浴人形に取り付けて、生まれたときにへその緒が切れるように工夫しました。

「命の不思議」プチ講義の様子

コラムで 自己診断

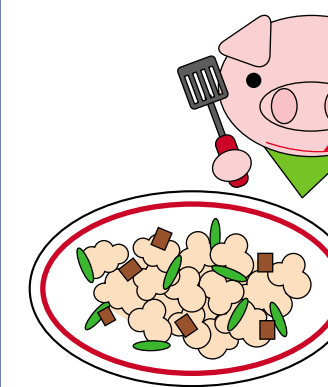
夏バテ

引佐赤十字病院 栄養課

「夏やせ」などといった、昔から日本人は夏バテに苦しんできたようです。人間の体温は汗をかくことにより、一定の温度に保たれています。外気が30度を超えると汗をたくさんかき、体温の熱を放散させます。日本のように高温多湿が長く続くと常に汗をかき、水分を必要以上に多くと

オクラと豚肉のチャンプル(1人前)

木綿豆腐	1/4丁
オクラ	20g
豚もも肉(赤身)	50g
塩少々	
酒	2g
かたくり粉	1g
サラダ油	6g
醤油	3g
塩	0.5g
こしょう	少々



- ① 木綿豆腐は水気を切り一口大にする。
- ② オクラは堅めに茹で、ななめ切りにする。
- ③ 豚肉は、一口大に切り、Aで下味をつける。
- ④ フライパンにサラダ油を入れ、強火で肉を炒める。
- ⑤ 肉の色が変わったら豆腐を入れ焼きつける。
- ⑥ オクラを入れ「塩、こしょう、醤油」を加えて味を整える。

引佐赤十字病院の住所が変わりました
市町村合併により、平成17年7月1日より引佐赤十字病院の住所が変更になりました。
【旧住所】 静岡県引佐郡引佐町金指1020
【新住所】 静岡県浜松市引佐町金指1020
※郵便番号・電話番号・FAX番号の変更はありません。

なお、平成16年度決算の概要は、次のとおりです。

○一般会計 決算額	歳入合計	歳出合計	歳入歳出差引額
日本赤十字社静岡県支部	674,393 千円	604,764 千円	69,629 千円
○医療施設特別会計 決算額	収益的収入	収益的支出	収入支出差引額
静岡赤十字病院	12,533,361 千円	13,149,518 千円	△ 616,157 千円
浜松赤十字病院	5,737,431 千円	5,771,331 千円	△ 33,900 千円
引佐赤十字病院	1,425,314 千円	1,602,433 千円	△ 177,119 千円
伊豆赤十字病院	2,198,658 千円	2,213,679 千円	△ 15,021 千円
裾野赤十字病院	1,357,874 千円	1,532,357 千円	△ 174,483 千円
○血液事業特別会計 決算額	収益的収入	収益的支出	収入支出差引額
静岡赤十字血液センター	3,577,137 千円	3,660,947 千円	△ 83,810 千円

突然の心停止に備えAED講習を開催 救急法講習会



突然の心停止に多くみられる心室細動という不整脈を、電気ショックにより元に戻す機器(AED)を迅速に使用することが救命に大変有効であることから、心停止者の救命のため、AEDを用いた除細動が一般市民でも行えることとなりました。



▲AEDトレーナーを使用する実技

これを受け日本赤十字社静岡県支部では、県民を対象にAED(自動体外式除細動器)を使用した救急法講習会を、7月2日(土)に支部6階会議室で開催し、27人が受講しました。

高齢者施設に勤務されている人をはじめ参加者全員が、いつでも対応できるようにしっかり学んでおきたいという意識が高く、講習に真剣に取り組んでいました。

より活発な活動を展開していきます 静岡県赤十字安全奉仕団誕生



これまで救急法指導員で構成されていた静岡県赤十字救急奉仕団が、時代に即し、更に充実した奉仕団に再編するべく、5月14日の定期総会を経て、5月26日に静岡県赤十字安全奉仕団として正式に誕生しました。



▲総会の様子

同奉仕団の団員は、すべての赤十字講習有資格者とし、活動はこれまで中心だった講習指導を指導員の活動として切り離すなど、大幅に見直しました。これにより、層の拡大に伴う団員の増強と活動範囲の拡充が図られ、災害救護活動や一般救護活動、そのための研修・訓練、安全思想及び講習の普及など、幅広く充実した活動を展開することが期待されます。皆様のご支援ご協力をお願いします。



▲評議員会で挨拶する川口副支部長

6月16日、日本赤十字社静岡県支部評議員会を支部6階会議室で開催しました。
この評議員会では、平成16年度収支決算、静岡県支部役員選挙、並びに浜松赤十字病院移転新築工事資金の借入について審議され、いずれも原案どおり承認されました。

評議員会開催

平成16年度決算報告などを承認

東海地震を想定した 大規模な合同訓練を開催



第3回緊急消防援助隊全国合同訓練

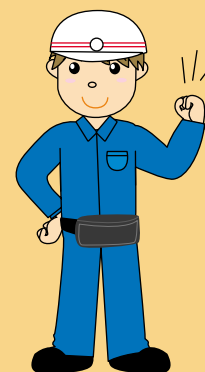
6月10日～11日に第3回緊急消防援助隊全国合同訓練が静岡市清水区三保で行われました。

指定公共機関である日本赤十字社静岡県支部からは、静岡赤十字病院救護班(稲葉浩久班長以下6人)が参加しました。

小雨の降る中、赤い消防車両が列をなして移動するのを見かけた方も多いかと思います。

今回の訓練は、東海地震を想定した実践的な総合訓練で、47都道府県・消防隊約400隊(2,000人)が集結し、2日間にかけて行われ、麻生総務大臣も来静されました。

静岡赤十字病院救護班は、2日目の午前トリアージ・救護所訓練に参加し、後半では、臨時ヘリポートから輸送ヘリコプターに乗り、重傷者の広域搬送訓練を行いました。



▲救護所訓練

救急法を世界中に広める ワールドファーストエイドデー開催



9月10日(土)、清水町のサントムーン柿田川にて救急法を世界中に広めるイベント「ワールドファーストエイドデー」を開催します。当日は、AED体験や赤十字の形のメッセージボードの作成、包帯巻きコンテスト等の催しを予定しています。みなさん、お誘いあわせのうえご来場ください。